

## 令和2年度 第1回総合教育会議議事概要

日 時：令和2年7月3日（金） 午前10時00分 ～ 11時15分

場 所：名張市役所2階 庁議室

出席者：名張市長 亀井利克

名張市教育委員会 教育長 西山嘉一、委員 瀧永善樹、委員 川原尚子（オンラインで参加）  
委員 辻愛、委員 丸下純一

《事務局》

総括監 田中克広

総合企画政策室 室長 深井克治、総合企画係長 梶本哲生

教育委員会事務局 教育次長 手島左千夫

教育総務室 室長 大西哲、参事 森永美紀子、教育総務係長 金森國康

### ○市長あいさつ

おはようございます。本日は誠にありがとうございます。100年に一度の国難と言われて  
います新型コロナウイルス感染症でございます。我々も3月からその対応、対策に追われてき  
ましたけれども、先月に入りまして緊急事態宣言が解除になりましてから、経済活動、社会生  
活活動も徐々にではございますけれども動いてきたというところでございます。そこで今日、早  
速この総合教育会議に万障繰り合わせ頂いてご出席をいただきました委員の皆様方には衷心よ  
りお礼申し上げる次第でございます。先月6月5日でございますけれども、三重県の新型コロ  
ナウイルス感染症の対策協議会が開催されました。私も県内の自治体を代表して出席をさせ  
ていただいたわけでございます。そこで4つの点についてこれから協議を進めて行かなければな  
らないということを申し上げました。1つはこれから風水害の季節を迎えます。自然災害とコ  
ロナウイルス感染症、特にこれは避難所の運営等に関わる問題でございます。これをマニユア  
ル化していくこと。2つ目と致しまして、秋口からこれが始まってくると思っておりますけれども季  
節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の事でございます。これの対応、対策という  
ことになる訳でございます。病院の病室の確保であったりPCR検査センターの拡大充実で  
あったりという事になります。インフルエンザというのは感染力が非常に強いのですが、コロ  
ナウイルスというのは感染力が非常に弱く、全国的には2万人ばかりでございます。ただお亡  
くなりになっている方が1千人ということですので、致死率が5%となる訳でございます。こ  
れは薬が無いからでございます。インフルエンザの場合は毎年1,000万人近くが感染されま  
す。お亡くなりになる方が1万人程度、0.1%と、これは薬があるからである訳でございます  
けれども、新型インフルエンザとなつてまいりますと今度はそっちの方へシフトしていかなけ  
ればコロナウイルスどころではないぞとこういう事になる訳ですけれども、これらの最悪のこ  
とを考えてそういうマニュアルもしていかなければならないという風にも思っております、  
そのことについてお話しを申し上げます。3つ目が学校運営と新型コロナウイルス感染症で  
ございます。このウイルスとも2年、3年お付き合いしていかなければなりません。感染者が出  
れば、全校一斉に休校するのか、そんなことではあつてはならない訳でございます、これは

私にも一定基準を申し上げてきたとおりでございますけれども、感染経路の特定、そして学校内での感染伝播防止、そして市町での医療体制、これがきっちりなっているかどうかということでの判断をして行かなければならないと思っております。1人の感染者が出たとそこをきっちり検証していく訳ですが、1つの学校を全部休ませるのか、あるいは学級閉鎖にするのか、そういうことでございますけれども、何れに致しましてもそういう事であれば、1日休んで消毒して、2日目からは再開と通常はそれでなければならぬと思っておりますが、そこかしこで出だしたという事になってまいりますと、またそれは異なってくる訳でございますが、今もって私はそういう基準で運営していくべきであると思っております。4つ目でございますが、これが経済活動と新型コロナウイルス感染症でございます。これは両立していかなければならないことです。ご案内のとおり経済をストップする、そして失業者が1%増えたということになりますと、2,300人から2,400の方が自殺されているのです。今までの例によりますと新型コロナウイルス感染症で亡くなる方以上にそういうことが起こってくる訳でございますから、これは両立をしていかななくてはならない。その正に綱渡りをどういう基準をもってやっていくかということが経済活動を止めずにして感染も抑えていくという事をどうしてやっていくのか。今、正に東京都がそれを模索されていると思っておりますけれども、三重県にございまして、そういう事はきちっとルール化しておくべきではないかという事で申し上げました。名張市のそういうマニュアル化ということについても、当然ながら検討していくところでもある訳でございますが、一定のものができましたらご案内をさせて頂きたいとこのように思っておりますのでどうかよろしくお願いを致したいと存じます。それから、休校していた時に保護者から休んでない時にご意見が多かったのが、その医療体制についての苦情というか、大丈夫かということでございまして、それで名張市は6人の小児科医がおりまして、あと1人の小児科医の1人が感染症の専門医でもあるわけです。他に名張ほど小児科に恵まれているようなこんな自治体はないわけでございますけれども、そこは24時間365日の小児救急医療を平成25年からやらせて頂いている訳でございます。それとそこのご意見のございました基礎疾患の方々、これは小児気管支喘息であったりネフローゼであったり、あるいはまたアレルギーであったりする訳でございますが、その方の専門外来につきまして午後から診察をやるということで、これは電話で予約をしていただいでからやらせて頂く、こういう事に致しているところでございます。ところが今、小児の方はもう全国的に診療所もそうですけど、来られる方が減って半分以下になっている訳です。これは何故かなど、基礎疾患の方など大変なのに、手洗いとうがいの励行とマスクの着用だけで、こんな健康体になるということは考えられない訳ですから、これどうしていただけるのかなあと全国的な傾向ですけれども、ちょっと気になるところである訳です。それと今年の4月から保険法の改正がありまして、200床以上の病院が初診料5,500円いただかなければならぬ、こういう問題がおこってきた訳です。これは大変なことで、今まで無償化していたので、これはどうかという事がある訳ですが、当分の間、まあ何年間か判断していきますけれども、やはり周知期間として、初診料をいただかない方向でしていくべきであろうと思っております。今そういう方針でやっていきたい。当然ながら救急の方はいただきません。以前から今もでございます。学校で怪我した子とか気分が悪くなって、学校の先生が連れてきてくれた、これも救急に入れることができる訳でございますが、それも初診料をいただかない事にしていきたいと思っておりますので、また色々ご意見ござい

ましたらおっしゃっていただければと思っております。それでは今日の総合教育会議、2つの項目がある訳でございますが、どうかよろしくお願い致します。

## 1. 新型コロナウイルス感染症への対応について

(市長)

はい、それでは要綱の定めによりまして当方の方で会議を進めさせていただきますので、どうかよろしくお願いを致しますと存じます。概ね11時ぐらいまでということでございますので、どうかご協力をお願い致しますと存じます。それでは、第1項でございますけど「新型コロナウイルス感染症への対応について」を議題と致します。事務局説明願います。

**【事務局説明】**

(市長)

説明は以上でございますが、今あった説明の中で何かご質問なり意見がございましたらおっしゃっていただきたいと存じます。

(教育委員)

はい、資料拝見させて頂いてご説明いただきまして、非常に体系立った形でしかも万全の体制を取られているという印象を強く持たせて頂きました。色んなことを想定して他府県、教育委員会等で起きていることを想定してのマニュアル作りですとか、それから対応というようなことを図られて、ここまで作られていると思ひまして、非常に安堵しているというような感じでございます。素晴らしいと思っておりますので、是非とも、これが絵に描いた餅とならないように、アクションを取らないといけないようになった時に指揮命令系統がしっかりしていると、それは大丈夫だろうと非常に安心して拝見させて頂きました。ありがとうございます。

(教育委員)

市民病院の小児科が非常に充実しても、患者数が少ないというのは、コロナ感染が怖いというのが一番の原因だと思います。もう安全対策は確保できているということをもう少しPRしていただいて、安全・安心のために来ていただけたらということを感じました。また、感染防止対策のガイドラインは、非常に細かく書いていただいているので分かりやすいのですが、市民の方への周知は、どのような形でされていたのでしょうか。

(事務局)

はい、市民センター、そして福祉関係でも、サロンとか地域で活動いただいている方、そういった方を中心にご案内をさせていただいて運営の参考にしていただいております。また、全市民向けにはホームページの方でお知らせさせていただいております。

(教育委員)

非常に細かいところまで、書いていただいておりますので、市民に注意喚起できると思ひます。分かりました、ありがとうございます。

#### (教育委員)

今の状態で、もし災害が起こったとなると色々な改革が必要で大変であろうなということを感じています。ソーシャルディスタンスを取らなくてははいけませんけども、避難しなければいけない人も多くなってくると、その避難所の確保という今まで以上に必要になってくるのかなと思わせていただきました。また、学校を避難所とした場合、学校の再開は、どんな流れで行うのでしょうか。子供の学びのところはなるべく止めるたくないと思いますので、その考えを聞かせていただきたいと思います。

#### (事務局)

避難者の方の数が落ち着いてきたら、学校教育現場の再開ということを見越した上で、学校長さん等々と協議をさせていただき、避難場所を集約していくというような形で進める予定であります。各避難所の収容数が減ってくると、それをまとめて一つの箇所に移動していただく形になります。そういう形で子供の学びに影響がないような対応を取っていきたいと思っております。

#### (市長)

避難所として使う優先順位は、まず市民センターを使おうと思っています。次に体育館、さらに必要ならば特別教室ということになってきます。今までの例でしたら、そこまでは利用しないで、市民センターで大体対応していけるとと思っています。学校の授業に支障をきたすということだけは避けて行かなくてはならないと思っています。

#### (教育委員)

この地方創生臨時交付金の中に GIGA スクール構想実現事業をたくさん入れていただいて非常にありがたいと思っています。これを本年度中に一括してやるということになるのですか。そうすると単年度で、色々なことをしていけないと思います。機材が揃った時にこれを運用していくための人的なものが対応できるかということも心配になってきます。特にハード面の操作方法等でサポートできる人的配置を1、2年かけてしていただけたらと思います。それと、避難所運営マニュアルにおいて、学校を使わないといけない状況が出てくるのは困るのですが、そうなった場合、子どもの授業再開に支障のないような形で運営して行けるような方策も常に頭に入れていっていただきたいと思います。

#### (市長)

避難所については、通常の風水害であれば、学校の教室までとはならない訳ですが、ただ南海トラフが動くと、そんな事は言っておられなくなります。名張市で1万人の受入を依頼されることになってくる。それと、今のタブレットの機材の関係と指導者、人材の確保について事務局のほうから説明します。

#### (事務局)

GIGA スクール構想のハード面とソフト面の両面についてご質問いただきました。ハード面につきましては、当初、令和2年度から5年度まで4年間で用意しなければならないという事もあり、かなり危機感を持ちながら、メーカー、業者の情報も聞きながら、今日まで進めてまいりました。

今回の臨時交付金の対応では、6月議会にその予算の確保させていただきながら進めてまいります。県内の状況は、9月議会で予算を確保して契約に入っていくというスケジュールが多いようです。本市は、そういう意味では一歩先んじているのかなと思います。ただ、文科省の補助金は2分の1ございますけども、これの決定通知がまだ届いていません。7月の中旬頃と見込んでおります。これが届きましたら、直ぐに入札の準備に入らせていただき、できるだけ早く、このタブレット5,900台物を用意して、対応をしてまいりたいと考えています。併せて、ソフト面ですけども、今回、調達しようとしているタブレットについては、既に小学校で使っている物と同等の物ですので、先生方も一定、その使用については経験があると考えています。どう授業に活用していただくかということについては、教育センターが中心になって色々検討しており、それに向けての先生方の研修も始めさせていただいています。ただ、その機種の設定や、万が一の事ということについては、やはり専門家の方々のお力添えをいただけないと対応できませんので、この臨時の地方創生の交付金を活用しながら、そういった専門家の方々のお力添えをいただいて、機械の導入はおおよそ目処が立つであろうと考えていますけれども、各学校に配備をして直ぐに活用できるように、また、万が一トラブル等が発生しても、スムーズに授業に活用できるよう対応を今後しっかり取っていきたいと考えています。

#### (市長)

この指導者の関係は、要請も含めて、今ちょっと考えているところです。それと機械の関係は、提供者で責任を持ってやっていただかないといけないと思っています。ある一定期間中は、面倒を見てもらわないと困りますので、そういう契約にして行かなければならないと思っています。それでは、教育長の方から、4月以降の長期欠席者の数など、その対策がどのように行われているのかを含めて説明してもらいます。

#### (教育長)

4月初旬ですけれども、コロナの感染が拡大するに伴いまして、コロナが心配で学校をお休みさせてほしいという保護者の数が増えてまいりました。一番多かったのが4月14日で保護者がコロナの事を心配して、小中合わせて65名の児童生徒が欠席されました。その後、6月1日から学校が完全に再開した後は、小中合わせて1日平均6名程度がコロナを心配しての理由で欠席が続きました。その中には、父親が単身赴任で東京に行った後に帰って来たので、念のために子供を休ませるといふご家庭もありました。あるいは、微熱が出たなどの体調不良で休ませてほしいというものもありました。その後、6月15日から児童が首にぶら下げている命の笛の確認もあり、指導主事が学校へ行き、校長先生と直接お会いさせていただいて、学校の課題や子供の様子を聞き取りさせていただきました。その中で、タブレットを渡させていただいて、学校との連絡あったり、勉強だったりとか、そういうふうな健康状況とかそういう所も確認をさせていただいてという取り組みをさせていただいているところでございます。ただ、

6月に入ってから、気持ちの心の変化というのも子供にごさいますて、真面目なお子さんですけども、ちょっと休みがちになったということもございます。原因が不明ですけども、コロナの関係かなという事もある訳でございます。その件も含めて今後気を付けてつけてやっていかないといけないと思っているところもございます。

(市長)

コロナで長期間休んでいたんで、もう学校へ出て行くのが嫌になったという人はいない訳ですが、きちっとこのサポートしていただくようにお願いします。

(教育長)

はい。

(市長)

他にどうですか。

(教育委員)

すみません。今回、GIGAスクール構想で5,988台のタブレットを購入してもらった訳ですけども、これ4～5年したら機械が古くなったということで入換をまた一斉にしないといけなくなるような状況が起きると思うのですが、その予算的なことなり、国の方に要望するなど、スムーズに移行が行けるような方法を今から準備しておいていただけたほうが良いと思います。

(市長)

それは市長会として要望させていただいております。他にどうですか。無いですか。それでは、1項目目としてはこの程度にさせていただきたいと思えます。2項目目、「名張市教育大綱」についてこれを議題と致します。事務局説明願います。

## 2. 次期「名張市教育大綱」の策定について

### 【事務局説明】

(市長)

スケジュール感を言ってほしいですが、いつまでにこれをまとめて、たたき台をいつ、ここに出してくれるのですか。

(事務局)

去年は3月に第3回目の総合教育会議を開いていただいておりますので、その時に最終案をだしていきたいと思っております。去年の11月か12月に2回目の総合教育会議を開いていただいていたので、その時に今日いただいた意見を踏まえながら、さらに事務局の方でもう少

し精査したものを提案させていただきたいと考えています。

(市長)

それだけでは出来ないと思うので、教育委員会の中でも諮ってもらわないといけない。

(事務局)

はい。

(市長)

何かご質問ご意見ございましたらおっしゃっていただきたいと思います。

(教育委員)

持続的可能な開発目標については、17のゴールがありますけども、具体的にもう何か検討されて、こういったゴールというものを今持っておられますか。どういった点でということがあればお聞かせください。

(事務局)

17のゴールのうち教育に関するものにつきましては、「質の高い教育をみんなに」というものがございます。ただ、これが17のゴールの中でいくつもの中で関係してくるところがございますので、その中では持続可能な社会の作り手となる教育の推進ということで定めさせていただく訳ですけども、具体的なものにつきましてはこども教育ビジョンの後期計画の中のほうにも示させていただきまして進めて行きたいと考えています。

(市長)

17のゴールというのはどこに記載していますか。

(事務局)

この大綱には示してはいません。

(市長)

SDGsというのは、誰一人取り残さない社会をということで名張市も自治体としてこれまで色々やってきていますが、その中でも物凄く重要な部分なので、抜かりなくやっていただきたい。

(教育委員)

この「SDGs」、「ダイバーシティ社会」、「超スマート社会」という文言は、市民一般の人が見た時はなかなか分からないと思います。全市民にこれ出す時はもっと分かりやすい言葉にしてほしい。また、簡単には終わりそうにない今回の感染症や近い将来起きてくる南海トラフ地震に対応する災害等の事など、特に市民の命や安全を確保するための教育の在り方ということ

は、この目標の中に言葉として入れておかないといけないのではないかと思います。特に活力の項目には、この辺の部分で文言として入れておいた方が良いのではないかと思います。

**(市長)**

この横文字に造語というのか、これが今どんどん使われ出して、なかなか分かりにくい訳で、使うのなら、きちっと解説も入れていかないとけない。安全安心というのは最も重要な部分なので、活力の中に入れるのかどこかに入れるのかは考えてもらったら良い。

**(事務局)**

確かに横文字というふうな中ではなかなか掴みにくいところがあります。使う場合は、分かりやすいように、注釈をつけていきたいと思っています。いくつか教育を取り巻く社会情勢の変化ということで解説をさせていただいているのですけれども、この中につきましてもどの言葉を使うか、どれがより名張にとっては大事なところになってくるのかということも含めて精査させていただいて、取り込んで行けたらと思っています。もう1つ安心安全もどこに入れていくかということになりますが、細かな話しになるとより具体的な計画となる教育ビジョンの中で対応して行くということも考えられるかと思います。教育大綱は基本方針という形になってきますので、長期にわたり使えるような形を1つ考えているところでございます。

**(市長)**

安全安心というのは1つの柱でもあるので、このビジョンの中へ記載することを検討しておいてほしい。

**(事務局)**

はい。

**(教育委員)**

生涯教育、学ぶこと、また健康で運動することは、大切ということで、凄く広い範囲、市民全体に関わる内容になっているのは、とても良いと思ったのですが、やはり教育は、子供が中心のことだと思うところもあるので、子供に対する内容がもう少しあってもいいのではないかと思います。

**(事務局)**

事務局としましては、教育は市民全体に関わってくるところでございますので、これから生涯というような考えの中では、子供から成人した大人も含めた中で教育的な考え方ということで考えさせていただいているところです。いただいたご意見は、参考にさせていただきたいと思っています。ありがとうございます。

**(教育委員)**

SDGs の言葉がなかなか馴染んでないことがありますが、質の高い教育をみんなにというこ



とは、非常に良いことなので、これからの目標に凄く適していると思います。一般市民に向けては、分かりやすい言葉というのは非常に大事なことだと思いますので、その辺のところを工夫していただけたらと思います。そして、人生百年時代の到来に向けた社会というのは、生涯現役社会ということを目指にさせていただいている中において入れていただけたら有難いかと思います。

**(教育長)**

この名張の教育全般を考えた時、子供たちを視点到たいのですが、広い意味での教育大綱になってくると考えています。分かりやすい言葉で市民に示すということが非常に大切になってまいりますので、本日ご意見いただいたことを参考させていただいて、また、再度協議させていただけたらと思います。

**(市長)**

時間も過ぎております。2項目目については、これからも教育委員会等でも議論していただくこととなりますので、よろしくをお願いします。

それでは、3項目目「その他」で何か事務局から報告ありますか。

**(事務局)**

本年度の総合教育会議の開催につきまして、年3回の予定で進めさせていただきたいと思っております。時期的には、11月と2月、若干前後はするかと思っておりますがその予定で、また教育ビジョンの策定状況とも均衡を取りながら日程の方を設定させていただければと考えております。また、状況によりましては、臨時で開催させていただくことも可能性としてはございますので、その際にはまたご連絡させていただきますので、是非ともご参加いただきますよう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**(市長)**

ご熱心にご議論いただきまして誠にありがとうございます。いただいたご意見等につきましては、できる限りこの計画等にも反映していきたいと思っております。引続きのご指導賜りますようによろしくお願ひを致したいと存じます。ありがとうございます。